ベネズエラ情勢（内政・外交：令和３年６月）

１　内政

（１）　新型コロナウイルス感染症対策関連

	新規症例数	累計症例数	新規死者数	累計死者数	累計治癒数
1日	1,402名	235,567名	15名	2,661名	216,746名
2日	1,188名	236,755名	13名	2,674名	217,798名
3日	1,258名	238,013名	15名	2,689名	218,956名
4日	1,239名	239,252名	9名	2,698名	219,971名
5日	1,462名	240,714名	10名	2,708名	221,108名
6日	1,424名	242,138名	11名	2,719名	222,531名
7日	1,483名	243,621名	15名	2,734名	223,788名
8日	1,679名	245,300名	16名	2,750名	225,266名
9日	1,464名	246,764名	14名	2,764名	226,548名
10日	1,083名	247,847名	17名	2,781名	227,699名
11日	973名	248,820名	16名	2,797名	228,998名
12日	1,489名	250,309名	17名	2,814名	230,248名
13日	1,377名	251,686名	15名	2,829名	231,558名
14日	1,197名	252,883名	16名	2,845名	233,028名
15日	1,233名	254,116名	20名	2,865名	234,393名
16日	1,341名	255,457名	21名	2,886名	235,795名
17日	1,405名	256,862名	20名	2,906名	236,983名
18日	1,278名	258,140名	19名	2,925名	238,241名
19日	1,273名	259,413名	18名	2,943名	239,480名
20日	1,327名	260,740名	15名	2,958名	240,933名
21日	1,298名	262,038名	15名	2,973名	242,357名
22日	1,334名	263,372名	16名	2,989名	243,840名
23日	1,179名	264,551名	18名	3,007名	245,519名
24日	1,091名	265,642名	16名	3,023名	246,983名
25日	1,310名	266,952名	15名	3,038名	248,066名
26日	1,397名	268,349名	17名	3,055名	249,039名
27日	1,286名	269,635名	13名	3,068名	250,528名
28日	1,019名	270,654名	16名	3,084名	251,587名
29日	1,025名	271,679名	17名	3,101名	252,784名
30日	1,033名	272,712名	18名	3,119名	253,946名

（ア）　４日、サンクトペテルブルク国際経済フォーラムに参加していたカストロ農業大臣、ヒメネス科学技術大臣及びパドロン観光・貿易大臣は、ロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチンEpiVacCoronaの獲得に向け

て、ロシアの製薬会社 Gerofarm と契約を締結した。

（イ） ５日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、約１１%のベネズエラ国民が新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種を行ったと発表した。他方、６日付当地エル・ナシオナル紙は、国民の約１１%に対するワクチン接種を行うためには、1回目のみの接種であるとしても、約 330 万回分のワクチンが必要であるが、これまで当地に到着したワクチンは、273 万回分のみであるとして、デルシー・ロドリゲス副大統領による本発表の信憑性の低さを指摘。

（ウ） ６日、マドゥーロ大統領は、コロンビアが新型コロナウイルス感染症に対し適切な対応をしなかったことにより、ベネズエラにおいて、英変異株（アプレ州）及びアンデス変異株（スリア州、トルヒージョ州）が、発見された旨述べた（注：感染者数等に関する言及はされておらず、詳細不明）。

（エ） ６日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌７日～１３日にかけて、全土において、外出規制緩和措置を講ずる旨発表した。

（オ） ６日、マドゥーロ大統領は、ＣＯＶＡＸを通じた新型コロナウイルス感染症ワクチンの獲得に向けて必要な費用は全て支払いをしており、ＣＯＶＡＸは数百万本のワクチンをベネズエラに送るべきである旨述べた。これに対し、９日、シロ・ウガルテ汎米保健機構（ＰＡＨＯ）緊急保健局局長は、ベネズエラ側の支払いに関し、未だ、１０百万米ドル不足している旨述べた。

（カ） ７日、ピニャテ教育大臣は、１０月より、対面式の授業を再開するための準備を実施している旨述べた。

（キ） ８日、アルバラド保健大臣は、中国から２９トンの新型コロナウイルス関連の医療支援物資が、ベネズエラ国営航空会社のコンビアサ航空により到着した旨発表するとともに、現在、全国１５１か所において、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種がなされており、各接種箇所において、１日あたり６０～７０回分のワクチン接種が行われている旨発表した。

（ク） ９日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、デ・コシオＰＡＨＯベネズエラ常駐代表と、ＣＯＶＡＸを通じた新型コロナウイルス感染症ワクチンの獲得プロセスに関し、会合を実施した。

（ケ） １０日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ベネズエラ政府が、新型コロナウイルス感染症ワクチン獲得のためにＣＯＶＡＸに支払った１０百万米ドルが、スイスユニオン銀行（ＵＢＳ）によって、恣意的に封鎖されている旨非難した。

（コ） １１日、マドゥーロ大統領は、国営放送を通じて、バイデン米大統領に対して、新型コロナウイルス感染症ワクチンを獲得するための資産の凍結解除を要求した。

（サ） １１日、祖国計画（Plan Patria）によって、２５８人のベネズエラ人がペルーより、ベネズエラへ帰国した。

（シ） １２日、アルバラド保健大臣は、ロシアより８回目のロットとなる新型コロナウイルス感染症ワクチン Sputnik V ５０万回分がベネズエラに到着した旨発表した。

（ス） １２日、複数名のサッカーベネズエラ代表が、ブラジルに到着した際の新型コロナウイルス感染症検査において、陽性であることが判明した。

（セ） １３日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌１４日～２０日にかけて、全土において、外出規制強化措置を講ずる旨発表した。

（ソ） １５日、アルバラド保健大臣は、国営放送を通じて、ベネズエラ赤十字社が、ベネズエラ政府が実施している新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種計画に対し、同計画において必要とされる器具やロジスティック面等における支援、並びに、１３か所のワクチン接種会場の設置を実施する旨発表した。

（タ） １６日、祖国計画（Plan Patria）によって、８８人のベネズエラ人がエクアドルより、ベネズエラへ帰国した。

（チ） １８日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ロシア直接投資基金（ＲＤＩＦ）を訪問し、ロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチンSputnik Ⅴ及びSputnik Lightの供給プランに関するフォローアップを実施した。

（ツ） １９日、避難民委員会（Conare）は、アプレ州にあるオフィスにおいて、保健省等との協力の下、コロンビアやメキシコ国籍を有するベネズエラ居住の避難民に対する新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種を開始した。

（テ） ２０日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌２１日～２７日にかけて、全土において、外出規制緩和措置を講ずる旨発表した。

（ト） ２２日、アレアサ外相は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの下、また、強制的且つ一方的な措置によって課される制限にもかかわらず、ロシアと署名した合意に基づき、将来的に、ロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチンEpiVac Coronaの生産プロセスに加わるであろうと表明した。

（ナ） ２４日、当国外務省は、プレスリリースを通じて、ベネズエラに、キューバ製新型コロナウイルス感染症ワクチン「アブダラ」が到着した旨公表した。

（ニ） ２４日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ベネズエラは、キューバ製新型コロナウイルス感染症ワクチン「アブダラ」１２百万本の供給に関する合意に署名し、今後数ヶ月間において、同ワクチンを受領する予定である旨発表した。

（ヌ） ２７日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌２８日～７月４日にかけて、全土において、外出規制強化措置を講ずる旨発表した。

（ネ） ３０日、コントラレス刑務所大臣は、刑務所に収容されている者に対する新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の第一段階を開始した旨発表した。

（ノ） ３０日、祖国計画（Plan Patria）によって、２５８人のベネズエラ人がペルーより、また、９９人のベネズエラ人がグアヤキル（エクアドル）より、ベネズエラへ帰国した。

（２） 地方選挙関連

（ア） ２５日、全国選挙評議会（ＣＮＥ)は、ツイッターを通じて、本年１１月２１日の地方選挙への選挙監視団の派遣を検討するために、ＥＵの予備的調査団が７月６日に当地に到着予定である旨発表した。

（イ） ２８日、マドゥーロ大統領は、民主主義を後押しする観点から、１１月２１日の選挙後、護民官は廃止されるだろうと述べた。

（ウ） ２９日、全国選挙評議会（ＣＮＥ）は、プレスリリースを通じて、「２９日開催されたＣＮＥ会合において、新たに２０政党に選挙参加資格を与えた。右２０政党は、２０２１年の次期地方選挙に参加することができる。また、同２０政党には、野党連合（ＭＵＤ）が含まれる。」と発表した。

（３） その他

（ア） ３日、グアイド側暫定大統領府プレスリリースは、同日、グアイド暫定大統領が、国家救済合意の達成に向けて、「ベネズエラ救済計画」を発表した旨公表した。

（イ） ８日、エンリケ・マルケス全国選挙評議会（ＣＮＥ）副委員長兼政治参加及び政治資金委員会（COPAFI）委

員長は、コミュニケを通じて、ＶＴＶ（国営放送）がＰＳＵＶの支持といった政治目的のために利用されているとして、COPAFI に対し、ＶＴＶの調査の開始を要請した旨発表した。なお、これに対し、ニャニェス通信情報大臣は、ＶＴＶは、ＣＮＥから何の公式な通知も受け取っていない旨述べた。

（ウ）　１７日、マドゥーロ大統領は、東京オリンピック・パラリンピックに出場するアスリートに対し、ベネズエラ国旗を引き渡すイベントを開催した。

２　外交

（１）　第２４回サンクトペテルブルク国際経済フォーラム

（ア）　２日、外務省は、プレスリリースを通じて、同日より、ベネズエラの政府代表団が第２４回サンクトペテルブルク国際経済フォーラムに参加している旨公表した。

（イ）　２日、エル・アイサミ経済担当副大統領兼石油大臣は、同フォーラムにおいて、エネルギー移行に関する提案を行った。

（ウ）　２日、ヒメネス科学技術大臣は、ベネズエラとロシアが、科学技術に関連する精密なシステムの導入に向けた協力に関する合意を評価している旨公表した。

（エ）　３日、ヒメネス科学技術大臣は、同フォーラムに参加し、癌のような特定の病気の早期診断を可能とする遺伝子技術に関し、レビューを実施した。

（オ）　３日、カストロ農業生産性・土地大臣は、Liovin ロシア農業銀行副総裁と会合を実施し、同会合後、ロシアの金融関係機関との協力の上で、多機能な仮想通貨を扱う銀行を創設するベネズエラの意向を表明した。

（カ）　３日、パドロン観光・貿易大臣は、同フォーラムの枠組みにおいて、Ignatiev ロシア旅行業連盟代表と会合を行い、同会合において、観光業において協働していくための形式や考えについて意見交換した。

（２）　「強制的且つ一方的措置、国際法の不遵守及び深刻な人道的影響」に関するテレビ会議

（ア）　９日、アレアサ外相は、ベネズエラ政府とジュネーブ外交国際関係学校共催の「強制的且つ一方的措置、国際法の不遵守及び深刻な人道的影響」に関するテレビ会議の開会式に出席し、ベネズエラは、国連憲章を遵守している旨説明した。

（イ）　９日、ドゥハン国連「一方的強制措置」特別報告者は、同テレビ会議にて、強制的且つ一方的措置に関する多くの学術的な研究がなされていないことから、学術的観点から、同分野の研究を進めるよう求めた。

（ウ）　９日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、同テレビ会議にて、システマチックに人権を侵害しているとともに、ベネズエラ国民が同政策の被害者となっていることから、制裁は、犯罪であり、人道に対する罪を構成している旨述べるとともに、マドゥーロ大統領は、米国による強制的且つ一方的措置のインパクトから、国民、特に脆弱なセクターに属する国民に対する保護を保障する旨主張した。

（３）　カブリサス・キューバ副首相の当地訪問

（ア）　１５日、リ・カウシ・カリブ地域担当外務次官は、マイケティア国際空港において、カブリサス副首相を迎え入れ、会合を実施した。

（イ）　１６日、カストロ農業生産性・土地大臣、アルバラド保健大臣及びレベロル電力大臣は、カブリサス副首相と会合を行い、同会合において、農業生産、保健及び電力分野における二国間の協力メカニズムに関する評価を実施した。

（ウ）　１７日、エル・アイサミ経済担当副大統領兼石油大臣カブリサス副首相と会合を実施した。

（エ）　２１日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、カブリサス・キューバ副首相と、キューバ・ベネズエラ協力協定において定められたアジェンダのレビュー、並びに、様々な両国間の関心分野に関する相互支援の強化に関し、会合を実施した。

（４） デルシー・ロドリゲス副大統領のカタール訪問

（ア） １５日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、カタールとベネズエラの二国間関係のレビュー及び強化を目的に、カタールへの公式訪問を開始し、同日、カタールに到着した。

（イ） １６日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、タミーム・カタール首長と、両国関係のレビュー及び共通の関心事項に関し、会合を実施した。

（５） アレアサ外相のアンタルヤ外交フォーラム参加

（ア） １７日、アレアサ外相は、１８日～２０日に開催されるアンタルヤ外交フォーラムに参加するため、アンタルヤ（トルコ）に到着した。

（イ） １８日、アレアサ外相は、ザリーフ・イラン外務大臣と会合を実施し、同会合において帝国主義による攻撃の文脈における世界的な地政学に関する意見交換を行うとともに、簡潔に二国間関係のレビューを行った。

（ウ） １８日、アレアサ外相は、モラティーノ「文明の同盟」国連上級代表と会合を実施し、同会合において、さらに公正で、平和且つ平等な繁栄した多極的世界に対するベネズエラのコミットメントを再確認した。

（エ） １８日、アレアサ外相は、ボレルＥＵ上級代表と、ＥＵとベネズエラの関係のレビュー、ベネズエラにおける対話及び両地域の現状に関し、会合を実施した。

（オ） １８日、アレアサ外相は、Botes 南アフリカ国際関係・協力省副大臣と両国間及び多国間における取組アジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（カ） １８日、アレアサ外相は、Jenca 国連政治・平和構築局ヨーロッパ、中央アジア、アメリカ大陸担当局長と会合を実施した。

（キ） １９日、アレアサ外相は、シャワ・ジンバブエ外務・国際貿易大臣と、協力関係の強化に向けた二国間アジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（ク） １９日、アレアサ外相は、マーリキー・パレスチナ外務庁長官と、協力及び団結のアジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（ケ） １９日、アレアサ外相は、ンベラ・ンベラ・カメルーン外相と、両国間の友情の絆の強化及び多国間分野における相互協力の再確認に関し、会合を実施した。

（コ） １９日、アレアサ外相は、チャヴシュオール・トルコ外相と、戦略的な協力に関する様々な分野における両国間の結びつきの総合的なレビューに関し、会合を実施し、同会合において、マドゥーロ大統領からエルドアン・トルコ大統領に宛てた、価値ある同外交フォーラムに祝意を表明する書簡を手交した。

（６） アレアサ外相のロシア訪問

（ア） ２１日、アレアサ外相に同行しているヒル欧州担当外務次官及びロン北米担当外務次官は、Riabkov 露外務次官等との二国間政治協議メカニズム会合を実施した。

（イ） ２２日、アレアサ外相は、ラブロフ露外相との二国間会談を実施し、同会談後の記者会見において、両国は、戦略的パートナーシップ、並びに、両国を結ぶ兄弟愛を進化し続ける旨強調した。

（ウ） ２２日、アレアサ外相は、２２日、ロシア公式訪問の枠組みにおいて、ヴァルダイ国際討論クラブの会合に参加し、ベネズエラを標的とする、米国により率いられる支配の試みや、過激化する攻撃の背景等につき、歴史的且つ地政学的観点から説明した。

（７）　その他

（ア）　１日、エル・アイサミ経済担当副大統領兼石油大臣は、石油輸出機構加盟・非加盟の産油国で構成されるＯＰＥＣプラスの第３０回閣僚監視委員会に参加し、ベネズエラは段階的な生産調整の強化に向けたイニシアチブを支持し続ける旨述べた。

（イ）　１日、アレアサ外相は、Ali Ragab 駐ベネズエラ・エジプト大使と会合を行い、イスラエル・パレスチナ情勢の悪化に対するエジプトの仲介を評価したマドゥーロ大統領の書簡を手交した。

（ウ）　２日、アレアサ外相は、Schuegraf 独外務省中南米局長と、二国間関係の発展及び新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対する共通の闘いに関し、会談を実施した。

（エ）　２日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、コロンビア政府によるベネズエラ国境の一方的な開放に対する拒絶を表明した。

（オ）　２日、マドゥーロ大統領は、ジオルダノ駐ベネズエラ・バチカン大使の離任セレモニーに参加し、同大使によるベネズエラ野党の代表者との対話プロセスに対する付き添い、並びに、ホセ・グレゴリオ・エルナンデスの列福に関し、謝意を表明した。なお、同セレモニーには、アレアサ外相も出席。

（カ）　２日、アレアサ外相は、国連腐敗特別総会にテレビ電話方式にて出席し、ベネズエラのあらゆる腐敗を防止し、闘い、罰するというコミットメントを再確認した。

（キ）　４日、アレアサ外相は、ピメンタ伯国会議員によって実施されたインタビューにおいて、ベネズエラは、現在、政治的及び衛生的安定を有していると述べた。

（ク）　４日、メキシコを訪問したロン北米担当外務次官は、グアダラマ墨外務省米州地域機構・メカニズム局長と会合を実施した。

（ケ）　７日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、マルドナド青年・スポーツ大臣と、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関し、テレビ電話方式にて、会合を実施した。なお、同会合にはイシカワ駐日ベネズエラ大使が同席した。

（コ）　８日、ベネズエラに駐在しているアフリカ諸国の外交団は、パレスチナ国民の主権、独立、自決権を支持する旨のコミュニケを発出した。

（サ）　８日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、カーボベルデに対し、アレックス・サーブ大使の米国への引き渡しの可及的速やかな停止等を要請する旨の国連人権理事会において同日採択された決定を歓迎した。

（シ）　９日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、ＮＧＯ自動特別登録簿（ＲＥＧＯＮＧ）に関する情報を共有する目的で、国際ＮＧＯ及び国連関係団体の代表２８人以上と会合を実施した。

（ス）　１０日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、ダ・コスタ駐ベネズエラ・アンゴラ大使と、二国間及び多国間関係におけるアジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（セ）　１０日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、Benmoussat 駐ベネズエラ・アルジェリア大使と、二国間及び多国間関係におけるアジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（ソ）　１１日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、米国政府によるニカラグア高官４名に対する強制的且つ一方的措置に対し、断固とした拒絶を表明した。

（タ）　１４日、ペニャ中南米担当外務次官は、カルデロン駐ベネズエラ・ニカラグア大使と、米国による最近の攻撃におけるニカラグア国民に対するベネズエラの団結を示す目的で会合を実施した。

（チ）　１４日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、Nkosi 駐ベネズエラ・アフリカ大使と、協力アジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（ツ）　１４日、アレアサ外相は、国際赤十字委員会と、ベネズエラ国外に居住する子供及び若者とベネズエラに居住する家族との再会に向けた枠組み合意に署名した。

（テ）　１４日、ロルカ社会エコロジー大臣は、砂漠化、土地劣化及び干ばつに関するハイレベル対話に、テレビ電話方式で参加し、ベネズエラ政府が砂漠化対処条約の遵守の枠組みにおいて実施している取組を強調した。

（ト）　１５日、タジェリア食糧大臣は、第４２回国連食糧農業機関（ＦＡＯ）総会において、持続可能な開発目標の達成に向けたベネズエラのコミットメントを強調するとともに、ＦＡＯに対し、不法で強制的且つ一方的な措置の停止に向けた仲介を要請した。

（ナ）　１６日、グアイド側暫定大統領府プレスリリースは、１５日、グアイド暫定大統領が、ガルノー・カナダ外相と会談を行い、同会談において、ベネズエラの民主化という大義に対するカナダの支持に謝意を表明した旨発表した。

（ニ）　１６日、グアイド側暫定大統領府プレスリリースは、同日、グアイド暫定大統領は、ミャンマーの外相であるササ医師と会談し、同会談において、民主主義のための闘争におけるコミットメントについて協議した旨発表した。

（ヌ）　１６日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、トロ外国貿易銀行（Bancoex）頭取と、マドゥーロ大統領の指示に従い、アジア・中東・オセアニアの国との投資及び貿易のアジェンダに関し、会合を実施した。

（ネ）　１７日、ベネズエラ政府は、外務省コミュニケを通じて、ベネズエラ社会が、同日開催された「ベネズエラ避難民への連帯を示す国際ドナー国会合」と称する、偽りのメディアキャンペーンが改めて行われたことを憤りとともに目にした旨発表した。また、同日、グアイド側暫定大統領府は、声明を通じて、グアイド暫定大統領が、主催国カナダ及び避難民支援を実施する諸国に謝意を表明した旨発表した。

（ノ）　１８日、ベネズエラ政府は、外務省コミュニケを通じて、グテーレス国連事務総長の再任に祝意を表明した。

（ハ）　１８日、ペニャ中南米担当外務次官は、カバジェロ駐ベネズエラ・パナマ臨時代理大使と、両国間の関係強化に関し、会合を実施した。

（ヒ）　１８日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、岡田大使と会談を実施した。

（フ）　１９日、マドゥーロ大統領は、外務省コミュニケを通じて、ベネズエラ政府及び国民の名の下、イラン国民に対し、イランにおいて１８日実施された完璧な、民主的且つ参加的な選挙に関し、祝意を表明した。

（ヘ）　１９日、メネンデス企画担当副大統領は、Molchan 駐ベネズエラ・ベラルーシ大使と両国間の協力に関するプロジェクトに関し、会合を実施した。

（ホ）　２１日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、国際ヨガの日の機会に、インドとの兄弟愛を強調するとともに、インドに対し祝意を表明した。

（マ）　２３日、モンカダ国連常駐代表は、国連総会にてキューバによって提出された米国政府による経済的、商業的、財政的封鎖の終了の必要性に関する決議に関する議論において、米国政府は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを戦争の道具として使用し、経済テロの促進者となっていると非難した。

（ミ）　２３日、マドゥーロ大統領は、ライシ・イラン次期イラン大統領と、帝国主義の攻撃に対する闘いにおけ

る協力の強化に関し、電話会談を実施した。

（ム）　２３日、ベネズエラは、外務省声明を通じて、カーボベルデ政府に対して、アレックス・サーブ大使に生命に関する基本的な権利、身体の安全、並びに適切なプロセスを保障するという義務の遂行を要請した。

（メ）　２４日、カラボボ戦勝記念日２００周年行事の一環として、カラカスの大統領府において、第１９回米州ボリバル同盟人民貿易協定（ALBA-TCP）首脳会議が、開催された。マドゥーロ大統領は、同首脳会議において、５種類の新型コロナウイルスワクチンを開発中であるキューバの進捗、並びに、米国のキューバに対する封鎖の終了を求める決議を１８４カ国が支持した国連総会における外交的勝利等を強調した。なお、出席者は、声明を通じて、多国間主義、国連憲章及び国際法の目的と原則に従い、帝国主義の支配と、地域の平和と安定に対する高まる脅威に立ち向かうために、地域メカニズムの意志を再確認した。

（モ）　２４日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、コートジボワール、ブルキナファソ、トーゴ、チャド、ベナン、ナイジェリア、ガーナ、ケニア、南アフリカの代表団４２名と会合を実施し、同外務次官は、同会合において、カラボボ戦勝記念日やベネズエラに対する強制的且つ一方的な措置について述べた。

（ヤ）　２４日付グアイド側大統領府プレスリリースは、ボルヘス外交担当コミッショナーが、同日、シャーマン米国務副長官と、ベネズエラにおける民主主義の回復、及び、緊急人道援助に関し、会合を実施した旨発表した。また、シャーマン米国務副長官は、自身のツイッターにおいて、ベネズエラにおける民主主義の回復及びベネズエラ国民の人道的必要性のための取組に対する米国の支持を再確認するとともに、米国は、国際社会のパートナーとともに、自由で公正な選挙に向けて、具体的な期間を定めた形で広範な交渉が実施されることを求める旨述べた。

（ユ）　２４日、マドゥーロ大統領は、第１９回米州ボリバル同盟人民貿易協定（ALBA-TCP）首脳会議出席のために当国を訪問中のアルセ・ボリビア大統領と、両国間の友好関係の強化とカラボボ戦勝記念日２００周年に対する敬意に関し、会合を実施した。

（ヨ）　２５日、アレアサ外相は、アメリカ社会民主主義者のメンバーと、会合を実施し、同会合において、ベネズエラと米国の関係に関するビジョンを交換した。

（ラ）　２５日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、ロシアにおいて、Riabkov 露外務次官と、生物兵器禁止条約の強化に関し、会合を実施した。

（リ）　２５日、アレアサ外相は、ドミニカ共和国の国会議員の代表者と、両国関係の強化の必要性に関し、会合を実施した。

（ル）　２５日、アレアサ外相は、スペイン及びバスク州の代表者と、連帯の関係の強化に関し、会合を実施した。

（レ）　２５日、外務省は、声明を通じて、マドゥーロ大統領が、ベネズエラ国民及び政府の名の下、ベニグノ・アキノ３世前フィリピン大統領の死去に対し、深い追悼の意を表明した旨発表した。

（ロ）　２８日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、モスクワにおいて、Vershinin ロシア外務次官と、多国間問題における両国間戦略的なイニシアチブに関し、会合を実施した。

（ワ）　２８日、ベネズエラ政府は、外務省プレスリリースを通じて、中国とベネズエラ外交樹立４７周年に祝意を表明した。

（ヲ）　２８日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、Wagner 新駐ベネズエラ・モーリタニア大使（ブラジル在住）と、農業、教育、鉱業、漁業、商業等における両国間の協力アジェンダのレビューに関し、会合を実施した。なお、Wagner モーリタニア大使は、２日、アレアサ外相に信任状の写しを手交した。

（ン）　２９日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、Awoniyi 新駐ベネズエラ・ナイジェリア大使と会談を行い、同会談において、両者は、両国間の戦略的な関係の強化に向けて取り組む意思を強調した。なお、同Awoniyi ナイジェリア大使は、２日、アレアサ外相に信任状の写しを手交した。

（ア）　３０日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、中国共産党創設１００周年に対する祝意を表明した。

（イ）　３０日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、テレビ電話方式で開催されたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）の関連会合に出席し、世界的な闘い及び議論の枠組みにおけるＣＥＬＡＣの位置づけの強化を要請した。

（ウ）　３０日、ペニャ中南米担当外務次官は、カラカスにおいて、マジョ・キューバ外務省南米部長と会合を行い、二国間の協力アジェンダのレビューを実施した。

（了）